

福祉支援活動 ——— 日常の取り組みが重要

災害支援活動は、社協本来の役割である地域福祉の推進や、何らかの支援を必要とする住民への社会福祉活動と密接な関係にあるものです。

社協が取り組む災害時被災者支援の重要な視点の中に「災害時要援護者の支援」活動があります。高齢者や障害者など支援から取り残されがちな人たちを支援するために、社協がコーディネーター役となり、地域住民による地域防災を総合的にバックアップする体制づくりが求められます。

社協職員の共通認識として社協全体で取り組むという意識統一が必要です。

- 日常の活動に、減災の視点を組み入れた活動を展開していくことが重要です。
- 福祉・保健・専門スタッフなど、日常の生活支援者の「つながり」を日常から仕組みとして整えておくことが大切です。
- 日頃の社協のネットワーク活動を通じて、災害時に支援が必要となる人々の居所を確認できる仕組みが必要です。
- 社協は、非常事態への適応が困難な人々の傍らにあって、その方々の人間性と尊厳が守られるように活動します。
- 個々の人々の状況に着目し、必要な時に、必要な人に、必要な支援を行います。

災害時要援護者の救援活動の体制づくりは、すでにあるコミュニティの力の再組織化と行政との連携の再構築あるいは強化が基本になります。

